

# 安全データシート

## 1. 製品及び会社情報

製品名 HISCL TM 試薬  
[構成試薬] [HISCL TM R1 試薬、HISCL TM R2 試薬、HISCL TM R3 試薬]

会 社 協和ファーマケミカル株式会社  
住 所 富山県高岡市長慶寺 530 番地  
担 当 部 門 安全環境管理部  
電 話 番 号 0766-26-4404 FAX 番号 0766-21-9030  
緊 急 連 絡 先 富山県高岡市長慶寺530番地 電話番号 0766-21-3456

作成日 ; 2022年 10月1日

|            |               |   |
|------------|---------------|---|
| 2. 組成、成分情報 | 単一製品・混合物の区別 ; | 混合物 (HISCL TM R1試薬、HISCL TM R2試薬、HISCL TM R3試薬いずれも)   |
|            | 化学特性に関する情報    | HISCL TM R1試薬、HISCL TM R2試薬、HISCL TM R3試薬いずれも水溶液  |
|            | 危険有害物質 ;      | HISCL TM R1試薬、HISCL TM R2試薬、HISCL TM R3試薬いずれも毒物であるアジ化ナトリウムが含まれていますが、本試薬としては毒物及び劇物取締法の対象ではありません。 |
|            | 成分及び含有量 ;     | 主な成分名 CAS No. 濃度<br>アジ化ナトリウム 26628-22-8 0.1 %   |

|             |               |   |
|-------------|---------------|---|
| 3. 危険有害性の要約 | 最重要危険有害性及び影響  | 分類基準に該当しない。   |
|             | 物理的及び化学的危険性   | 非危険物 (通常の取り扱いで安定)<br>アジ化ナトリウムは、鉛、銅などの金属と反応して爆発性の化合物を生成する危険性があります。 |
|             | 人の健康に対する有害な影響 | アジ化ナトリウムは、目や皮膚に炎症を生じさせることがあります。                                   |
|             | 環境への影響        | —   |
|             | 特定の危険有害性      | —   |

|         |           |   |
|---------|-----------|---|
| 4. 応急措置 | 吸入した場合    | 新鮮な空気の場所に移動させ安静にし、必要に応じて医師の診断を受ける。            |
|         | 皮膚に付着した場合 | 接触部位を水と石鹼でよく洗う。かゆみ、炎症等の症状が出た場合は速やかに医師の診断を受ける。 |
|         | 目に入った場合   | 清浄な流水で、15分以上洗眼し、直ちに眼科医の診断を受ける。                |
|         | 飲み込んだ場合   | 水でよく口の中を洗浄する。直ちに医師治療を受ける手配をする。                |

|                 |                       |   |                             |                                |
|-----------------|-----------------------|---|-----------------------------|--------------------------------|
| 5. 火災時の措置       | 消火剤                   | —   |                             |                                |
|                 | 消火方法                  | —   |                             |                                |
| 6. 漏洩時の措置       | 人体に対する注意事項            | —   |                             |                                |
|                 | 環境に対する注意事項            | —   |                             |                                |
|                 | 除去方法                  | 水拭きする。                                    |                             |                                |
| 7. 取り扱い及び保管上の注意 | 取り扱い                  | 眼又は皮膚に触れないように適切な保護具を着用する。                 |                             |                                |
|                 | 保管                    | 2～8℃で保管する（凍結禁止）。                          |                             |                                |
| 8. 暴露防止及び保護措置   | 設備対策                  | —   |                             |                                |
|                 | 保護具                   | 保護眼鏡；                                     | 要                           |                                |
|                 |                       | 保護手袋；                                     | 要                           |                                |
| 保護衣；            |                       | 要   |                             |                                |
| 9. 物理的及び化学的性質   | 外観等                   | HISCL TM R1<br>試薬<br>無色～淡黄色の液体            | HISCL TM R2<br>試薬<br>褐色の懸濁液 | HISCL TM R3<br>試薬<br>無色～淡黄色の液体 |
|                 | pH                    | 6.9～7.1                                   | 6.4～6.6                     | 6.4～6.6                        |
|                 | 物質の状態が変化する特定の温度（温度範囲） | —   | —                           | —                              |
|                 | 引火点・発火点               | —   | —                           | —                              |
|                 | 密度                    | —   | —                           | —                              |
|                 | 溶解度                   | 水に易溶                                      | 水に易溶                        | 水に易溶                           |
|                 | 10. 安定性及び反応性          | 安定性                                       | 通常の実験で安定。                   |                                |
| 反応性             |                       | アジ化ナトリウムは、鉛、銅などと反応して爆発性の化合物を生成する危険性があります。 |                             |                                |
| 危険有害な分解生成物      |                       | なし  |                             |                                |
| 11. 有害性情報       | 急性毒性                  | データなし                                     |                             |                                |
|                 | 局所効果                  | データなし                                     |                             |                                |
|                 | 慢性毒性、長期毒性             | データなし                                     |                             |                                |
|                 | 特定の影響                 | データなし                                     |                             |                                |
| 12. 環境影響情報      | 残留性、分解性               | データなし                                     |                             |                                |
|                 | 生体毒性                  | データなし                                     |                             |                                |
|                 | その他                   | データなし                                     |                             |                                |
| 13. 廃棄上の注意      | 残余廃棄物の廃棄方法            | 水質汚濁防止法等の規制及び各都道府県の条例等に留意して処理してください。      |                             |                                |
|                 | 汚染容器・包装の廃棄方法          | 都道府県知事の認可を受けた産業廃棄物処理業者に処理を委託してください。       |                             |                                |

|            |                             |  |
|------------|-----------------------------|--|
| 14. 輸送上の注意 | 国際規制<br>輸送上の特定の安全対策及び<br>条件 | —<br>運搬に関しては、転倒落下、損傷を来さず、横倒しし<br>ないよう積み込み、荷崩れを防止してください。  |
| 15. 適用法令   | 薬機法（体外診断用医薬品）               |  |
| 16. その他の情報 | 引用文献<br><br>記載内容の取り扱い       | <p>(1) PRTR法：特定物質の環境への排出量の把握等及び管理の促進に関する法律 (2) 医療廃棄物処理ガイドライン (H01.12) 厚生省水道環境部産業廃棄物対策室</p> <p>全ての資料や文献を調査したわけではない為情報漏れがあるかもしれません。又、新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じます。重要な決定等にご利用される場合は、出典等をよく検討されるか、試験によって確かめられることをお勧めします。尚、含有量、物理化学的性質等の数値は保証値ではありません。又、注意事項は、通常的な取り扱いを対象としたものなので、特殊な取り扱いの場合には、この点にご配慮をお願いします。</p> |